（別紙様式４―B）

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

私がアメリカのイースタン・ケンタッキー大学に 10 ヶ月間留学をして学んだことはたくさんある。その中でも、私が特に深く考えた、日本とアメリカの違い、皆同じ人間であること、自分と向き合い自分を客観視することの 3 つについて述べる。

まず、日本とアメリカの文化や社会の差異について述べる。文化については、一般的に日本が「恥」、全体主義、消極的意思表示の文化であるのに対し、アメリカは、「罪」、個人主義、積極的意思表示の文化であった。日本の「恥」の文化では、自分の言動の際に、常に他人の視点が含まれる。そのため、自分の言動が他人にとって恥じるべきものかそうでないかを、言動の基準にするのである。一方、アメリカの「罪」の文化では、他人の視点は含まれない。自分の言動が真理に対して正しいか、正しくないかを基準にするのである。また、全体主義の日本では、他人に合わせて自分の言動を表現したり控えたりする。重要なのは、全体がまとまって機能することであり、その集団での意思表示は消極的になりやすい。一方、アメリカの個人主義では、自分の意思表示をしなければ相手と対等に関わり合うことができない。重要なのは、個人の自由とその意思決定である。そのような文化や国民性の差異は、長所でもあり、短所でもある。例えば、全体主義の長所は、自分が全体の目的のために協力したり、他人のために自分を抑えることができることである。一方、短所は、自分のことを表現しにくいことである。時に、個人の意見が理にかなっている場面でも、大多数が自分とは異なる意見を持っていれば、全体を優先しなければならないという点である。

アメリカの文化で特徴的なのは、キリスト教信仰である。キリスト教では、イエス・キリストがこの世界の全てを創造し、キリスト教徒を導いていく存在だとされている。キリスト教徒は、イエス・キリストを人生の拠り所とし、イエス・キリストの愛を信じるだけで人生が救われると考える、とても楽な生き方であると捉えるかもしないが、実際はそのようではないこともわかった。キリスト教徒は、自分の選んだ職業がイエス・キリストの導きであると捉えているため、導かれた職業を選択することはとても大変で、その後の人生が険しい道にもなり得るのである。例えば、キリスト教を信仰している私の友人 C さんは、野球をすることが大好きで、将来はプロの野球選手になることを考えて日々努力していた。しかし、イエス・キリストが C さんに導いたのは、軍隊の仕事を経験することであった。軍隊は、給料は低く、きつい仕事で、自分のなりたい職業ではないため、C さんは当然困惑し、理解に苦しんだ。しかし、C さんはその経験から、教会の牧師になるという新しい夢を見つけた。C さんは当時を振り返り、そのことにとても感謝していると言っていた。このように、ただイエス・キリストを信仰し、お祈りをするだけではないのである。キリスト教徒は、日常生活全てに起こることは、イエス・キリストが創造したものであり、何か意味のあるものだと考える。そのため、人生で起こる選択がいかに険しいものであろうとも、その選択を信じて、突き進んでいくのである。

次に、どこに暮らしていようが、皆同じ「人」であることについて述べる。前述したように、日本とアメリカにはそれぞれ異なる特徴があるが、その差異に良い悪いの価値はない。文化の違いは長所にも短所にもなると述べたが、そのことは人にも当てはまる。私が留学中に一番強く感じたことは、日本人もアメリカ人も、同じ「人」であることである。日本とアメリカのように、国が異なれば文化

が異なり、文化が異なると国民性が異なるのは確かである。しかし、国民性は違っても、日本人もアメリカ人も同じ「人」であることに変わりはない。アメリカは個人主義であるが故に、日本人と比べると自己中心的である人が多いと感じたが、アメリカ人でも謙虚な人、大変努力をする人、他人を思いやる人は大勢いる。通っていた大学の教授である M さんは、大変努力をする方であった。毎朝 5 時に起床し、ランニング、朝食の準備、子どもを送り、1 時間半かけて大学に通勤している。授業と自身の研究以外にも、学生の相談や学習支援を積極的に行っており、常により良い授業づくりのために努力をしていらした。また、私の友人 E さんや K さんは、とても思いやりのある人であった。自分の買い物が済んでいても、私のために、わざわざ運転して、食材の買い物に付き合ってくれたり、慣れない環境での生活を気遣い、困ったことはないかと気にかけたりしてくれた。アメリカのケンタッキー州に住む人々はとても親しみやすく、自分の意思表示がはっきりしている人が多いが、その人の性格は人それぞれであった。相手の気持ちを察して意思表示が控え目な人もいたのである。また、計画を立てて日々計画通りに過ごす人もいれば、場当たり的に 1 日を過ごす人もいた。感情の起伏が激しい人もいれば、常に穏やかな人、あまり話をしない人もいれば、話すことが大好きな人もいる。国民性により、全体的な傾向、特性はあるが、最後はその「人」で異なる。傾向や特性として文化や国民性を知っておくことは、その国の人々と関わる上でとても役に立つことである。しかし、一番大切なことは、その人を自分と同じ「人」として尊重することである。同じ「人」なので、ひどいことを言われれば、嫌な気持ちになるし、感謝をされれば、嬉しい気持ちになる。根底では、人はどこに住んでいてもどこで生まれても同じ「人」なのである。そして、その人の性格や人柄を知っていくことが大切である。人には、長所があれば短所もある。長所と短所は表裏一体で、短所のない人はいない。だから、その人が得意なことや好きなことは何か、どのような性格的特徴であるか、どのような人柄であるかなどを関わり合いの中で少しずつ知っていくことが大切であると考える。

どの国にも、どの人にも特徴があり、それらは長所としても短所としても捉えることができる。どのような人にも長所と短所があるので、自分はどのように人々と関わりたいのか、どのようなことが自分に向いているのかを考えて人々と関わっていくことが大切であると考えた。

最後に、自分と向き合い、自分を客観視することについて述べる。留学中は、日本と大きく異なる環境で生活していたこと、家族から離れて一人で生活していたこと、自分の時間が多くあったことから、自分のことを積極的に客観視し、自分と向き合うことができた。今までは、私は文章を読むことが遅い自分を否定的に捉えていたが、だからこそ、私は深く考察することは得意であることに気が付いた。時間をかけて取り組んだ課題のレポートは、とても良い評価を頂いたのである。また、私は完璧主義の性格が強く、10 計画した中で 9 つのことができていても、1 つできないことがあると自分を低く評価し、自己嫌悪を抱くこともあった。しかし、自分には完璧主義の性格があることを自覚し、その性格も、試験勉強等の場面で発揮すれば、学習範囲の隅々まで勉強することにつながるため、長所にもなると捉えることができるようになった。自分の短所を受け入れ、客観的に捉えなおすことで、長所も短所も含めて自分を受け入れることができた。自分

を受け入れることができるようになると、自分を尊重することができるようになる。そして、自分のことを誇らしく思えるようになった。自分のことを尊重できるようになると、他人のことも尊重できるようになる。自分の弱さも強さも知り、ありのままの自分を受け入れているため、わざわざ自分を大きく見せることや、人と比べて人の欠点を指摘する必要もない。他人も自分と同じように尊重し、その人と正直に関わることができる。

以上のことから、私が今後に活かしていきたいことは、人を同じ「人」として尊重すること、自分の長所をさらに伸ばしていくこと、自分と向き合い続け、高め続けることである。

人として尊重することについて、私はつい見栄を張ってしまうことがある。しかし、いつでも、誰に対しても同じ「人」として尊重できる人でいたいと思っている。なぜなら、そのような自分でいることで、自分に誇りを持ち、そのように生きる人生に、私自身が納得できるからである。また、人は自分が尊重されると、他の人も尊重したいという気持ちが湧くため、ますます「人」を尊重していく人が増えるのではないかと考える。多くの人々が一人ひとりを尊重できる社会はとても素敵ではないだろうか。

自分と向き合い続け、自分を高め続けることについては、別の言い方をすれば、試行錯誤し、いつも自分を楽しませることである。留学中は、新しい環境と文化の中で生活していたため、いつも試行錯誤の連続であった。しかし、助言と支援を頂きながら、自分で考え、決断し、実行すること、それがとても楽しいと感じていた。無理をしながら、嫌な気持ちを抱えながらでは、そのうち疲れ果ててしまう。人生が楽しくなくなってしまう。しかし、自分が熱中することを、試行錯誤しながら１つひとつ実行していくことで、自分の考えや技能が高まり、ますます自分を高めることができる。より広い視野と高い技能は、自尊心を高めたり、人のために役に立てる領域を広げたりすることができる。

以上のことは、全て、自分に焦点が当たっている。それは、何をするにも、まず自分で自分を楽しませたり、尊重できなければ、他人を楽しませたり、尊重したりすることは難しいからである。故に、自分のことを尊重し、楽しませることができれば、他人のことも同様に尊重し、楽しませることができると考えている。また、そのような自分の姿と言動を通して、人が人を尊重する社会を実現していきたいと考えている。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

学生の相談や学習支援を積極的に行う M 教授に授業についていくための助言や人生経験談を伺った。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

とても思いやりのあるＥさんやＫさんと日本人の友人。キリスト教徒であるため、一緒にキリスト教について学んだ。

イースタン・ケンタッキー大学主催の留学生パーティーにて、文化の違い、ダンスや食文化などについて学んだ。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

大学の友人とその友人と共にハイキング。それぞれが学んでいることやアジアとアメリカの教育方法の違い等について話をした。